

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月11日現在

機関番号：15301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520084

研究課題名（和文） 転換期における「貧困」に関するアウグスティヌスの洞察と実践の研究

研究課題名（英文） Augustine's Understanding and Practice of Poverty in an Era of Crisis

研究代表者

出村 和彦（DEMURA KAZUHIKO）

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授

研究者番号：30237028

研究成果の概要（和文）：

本研究は、古代末期北アフリカ、ヒッポのキリスト教司教アウグスティヌスの「貧困」理解を取り扱い、時代の転換期における「貧困」に関して、彼がいかなる洞察を有し、実践的に関与したかを、彼の初期作品、民衆に語った『説教』、『神の国』、および『詩篇講解』等の原典読解を通じて解明した。これによって、「貧困」についての「霊性化」という彼の思想の一貫した傾向を見出している。本研究は、オーストラリアや韓国の研究者との有益な交流を通して推進された。

研究成果の概要（英文）：

This study deals with Augustine's theory and practice of the poor and poverty, thereby clarifying and explaining what he takes to be the spiritualisation of the poverty in late-antique North African community. The works of the bishop of Hippo, such as the early treatises, *Sermons to the people*, *City of God*, and *Expositions of the Psalms*, show the consistent and persistent tendency to spiritualise the poverty in an era of crisis. This research has been stimulated by the growth of international exchange among Australian, Korean, and Japanese scholars.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2010年度	800,000	240,000	1,040,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：西欧倫理思想史

科研費の分科・細目：哲学・思想史

キーワード：(1)アウグスティヌス、(2)貧困、(3)教父、(4)キリスト教、(5)修道制、(6)古代末期、(7)転換期、(8)国際研究者交流

1. 研究開始当初の背景

本企画は、研究代表者出村和彦を中心にして、平成19～20年度に遂行された日豪二国間交流事業（日本学術振興会）共同研究「転換期

における「貧困」への取り組み—初期キリスト教をモデルにして」を発展的に継承すべく、平成21～23年度の3年間にわたって遂行さ

れた立案である。

研究代表者出村和彦は、ローマ帝国末期の転換期、4世紀から6世紀の代表的な司教の貧困についての言説と行動を解明するオーストラリアカトリック大学の Pauline Allen 教授を中心とするオーストラリア学術会議の創発研究プロジェクトに連携し、それに先行する3世紀から4世紀の初期キリスト教の思想家について精査する研究者との意見交換をすすめるなかで、アウグスティヌスの中期の作品『告白』と『修道規則』における「貧困」に関する理解を彼の同時代の伝記と突き合わせて解明することに取りくんだ。また、研究分担者上村直樹は、アウグスティヌスの初期著作に現れた「貧困」概念を精査することで、この共同研究に加わった。

こうした共同研究の展開は、古代的な相互扶助、また公共的、私的な慈善活動を通して解消されようと試みられてきた「貧困」の問題が、ローマ帝国末期の社会、経済の揺らぎによってふたたび深刻さを増してくる4世紀後半から6世紀という転換期に「可視化」されるとともに、この時代のキリスト教司教が、従来とは異なる「貧困」に関わる言説を構築することによって、新たな自己理解と社会的な活動に取り組み始めていたという近年提示され、欧米の研究者のあいだで一定の評価を獲得することになったテーゼ (P. Brown, *Poverty and Leadership in the Later Roman Empire* (Hanover, NH 2002): 戸田聡訳『貧者を愛する者 古代末期におけるキリスト教的慈善の誕生』(慶應義塾大学出版会 2012)) についての疑義から出発するものである。本企画では、4世紀後半から5世紀前半の転換期に生きたアウグスティヌスの「貧困」理解やこれへの実践的な関与を包括的に検討するモノグラフが出ていないという欧米の学問的な空白を埋めるべく、彼の「貧困」に関わる思

想的展開を解明することに集中し、その思想史的な意義を明らかにすることを試みた。

2. 研究の目的

上述の背景のもとに本企画は、アウグスティヌスの原典テキストを精査し、彼の「貧困」理解と実践の解明に集中する。アウグスティヌスにおいて、

(1) 「貧しい者」が社会の成員として、たんに軽蔑、排斥の対象と見なされるのではなく、むしろ救済されるに「ふさわしい」者であるという聖書的観点と、現実には「富者であっても救われる」必要があるという共同体的観点とを、いかに共同体メンバーに向かって説得的に呈示しようと試みられたか。

(2) 「貧困」は、単なる社会経済的困窮を指す概念ではなく、あらゆる階層において「富める者」「貧しい者」がいるとされる際、その貧富を分ける基準はどこにあったか。

(3) 聖書を字義どおり解して財産を放棄する行動を、英雄的に賞賛する社会の中で、これに一定の理解を示しながらも、そのように急進的に実践する行動に対しては、なんとか押しとどめようと腐心していたことにどのような一貫性があるのか。

以上の三点の問題意識のもと、彼の著作、『説教』や『詩篇講解』を網羅的に、かつ詳細に分析することを通して、その思想的な展開を正確に把握することを目的とする。これによって、アウグスティヌスがいかなる基本的理解のもとに「貧困」を語り、その問題に取り組もうとしたのかを明らかにする。そして、そのような語り方をするアウグスティヌスの人間理解の中心的思想を解明する。さらに、この問題の思想史的問題性を捉えることを目指した。

3. 研究の方法

本研究を遂行するに当たって、出村は、研究

全般にわたって東西の教父に目配りし、アウグスティヌスの「貧困」のとらえ方を、修道生活を基盤にしつつ司教として民衆のまえに立って彼らに語りかけていたテキストの綿密な読解に基づいて捉えるという方法を採った。上村は、「貧困」への取り組みを手掛かりにアウグスティヌスにおける社会と宗教との関係についての省察を解明することに着手するとともに、コンピュータデータベースを駆使して、アウグスティヌスにおける「貧困」の語り方についての実態を、詩篇講解を中心とした聖書解釈という観点から解明することに取りくむ。その際に、両名は協力して、内面化されて捉えがたいアウグスティヌスの「貧困」そのものを見つめる視点を思想的に明らかにし、その成果を内外に発信することに殊に留意した。

4. 研究成果

まず、本研究の成果を、年度ごとにまとめる。

(1) 21 年度

研究初年度に当たり、両研究者は緊密な連絡の下に基本的なテキスト資料・データベースの整備に当たり、両名とも、9月に「アジア環太平洋初期キリスト教学会(APECSS)」国際研究集会(仙台)で発表し、研究協力者 Pauline Allen 教授との意見交換を行った。また両名とも 2010 年 3 月に第 1 回韓国教父学会国際研究集会(ソウル)にて発表し、オーストラリアチームによって公刊された共同研究書 *Preaching Poverty in Late Antiquity* (2009)の成果を批判的に検討することに着手した。具体的には、出村は、アウグスティヌスの「貧困」に対する洞察の基本的な前提となる彼の修道生活における「貧困」の自己理解のあり方を検討した論文を公表した(雑誌論文②)。ついで、貧困への洞察の神学的基礎となる彼の『パウロ書簡』解釈の発展を跡づける試みを APECSS 研究集会

で発表した(学会発表⑩)。さらに、『説教』や『詩篇講解』の精査を通じて、貧しい他者への施しなどの実践的関わりを唱道するアウグスティヌスの論述の理論的根拠を提示し、彼のキリスト教倫理の特徴の解明を試みた(学会発表⑧)。上村は、計画全体の基盤となるアウグスティヌス初期の「貧困」を包括的に検討した論文を公表した(雑誌論文④)。また、アウグスティヌスの宗教的な言説の典型といわれる「霊的な修練(exercitatio animi)」の実態を検討することによって、宗教に対してとるべき態度がいかに形成されているかを解明することに着手した。「霊的な修練」のアウグスティヌスの『書簡』全般での実態を検討した成果を、9月に APECSS 研究集会で発表し(学会発表⑫)、ついで、「霊的な修練」の始まりを解明した成果を 10 月の国際教父・中世・ルネッサンス学会(フィラデルフィア)にて発表した(学会発表⑩)。さらに、次年度以降の研究の中心となる『神の国』での「貧困」の問題圏における社会性の実態について、韓国ソウルでの国際研究集会にて発表し(学会発表⑨)、課題となるべきテーマを絞りこむことを試みた。

(2) 22 年度

本研究の第 2 年度において、既に入手した古代末期の貧困に関するデータベースを活用し、前年度の研究から明らかになった課題を検討することに着手した。具体的には、出村は国際学術誌に前年度 9 月の APECSS 研究集会での発表を論文にまとめたものを掲載するとともに(雑誌論文③)、「貧困」と「心」についての序論的な論文を発表した(雑誌論文②)。上村は、前年度末 3 月に韓国ソウルで開催された国際学会での発表を再考することによって、「貧困」の問題圏における社会性の実態を初期著作に遡って考察した成果を、北米教父学会(米国シカゴ)において

発表した（学会発表⑦）。そして、アウグスティヌスの宗教的な言説の典型である「霊的な修練」の実態を、『説教』において検証した成果をカナダ教父学会（モントリオール）において発表した（学会発表⑥）。さらに、『神の国』において検証した成果をメルボルンの国際学会において発表した（学会発表⑤）。また上村は、次年度7月に英国リーズで開催される予定の国際中世会議が学会統一テーマを「貧者と富者」と決定したことに合わせ、本研究全体の成果を発表するべく準備を進めた。両名は本年度末3月にオーストラリアカトリック大学初期キリスト教研究センターでオーストラリアの研究チームとの共同セミナー（Joint Japanese-Australian Seminar on Crisis in Late Antiquity）を開催し、そこでオーストラリア側との意見交換を行い（学会発表③④）、最終研究成果報告書の内容や構成について綿密に検討した。

(3) 23年度

本研究の最終年度において、全体の研究成果をまとめ、2011年7月に開催された国際中世会議や8月のオックスフォード国際教父学研究集会で発表した。それらを踏まえ、研究成果報告書を二分冊で刊行した。報告書本体（『転換期における「貧困」に関するアウグスティヌスの洞察と実践の研究：2009–2011年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究報告』、79頁）には、これまでに発表した論考を以下の順で所収している：

① 出村和彦「アウグスティヌスの「貧困」への関わりと「心」、11-24頁。

② Naoki KAMIMURA, “Rhetorical Approach to the Poor and Poverty: A Case Study of Augustine’s *Enarrationes in Psalmos*”, pp. 25-40.

③ Naoki KAMIMURA, “Poor and Poverty in the Earthly City: A Case Study of

Augustine’s *De ciuitate dei*”, pp. 41-52.

④ Naoki KAMIMURA, “Augustine’s Spiritualisation of the Poor in an Era of Crisis”, pp. 53-63.

⑤ Kazuhiko DEMURA, “Christian Ethics of St. Augustine on Poverty”, pp. 65-73.

また、別冊には、オーストラリア研究チームがすでに公刊している研究書 *Preaching Poverty in Late Antiquity* (2009) のアウグスティヌスに関連する第4章を翻訳し、掲載した（上村直樹『「貧困」についてのアウグスティヌスの洞察』報告書別冊、VII+85頁）。年度末3月には、オーストラリア・ブリスベンで開かれた共同研究集会において、報告書の内容を発表するとともに、オーストラリア研究チームとの共同討議を行った。

併せて出村は、8月の第16回国際教父学研究集会で、「心」の概念について招待講演を行い（学会発表②）、以上を踏まえ、単著『アウグスティヌスの「心」の哲学：序説』岡山大学文学部研究叢書33（図書①）を刊行し、とりわけその第4章に本研究は反映されている。上村は、これまでに入手・整備したテキスト資料とデータベースを活用し、アウグスティヌスによる「貧困」の語り（narrative）、特に「喜捨」に関する言説に独自の「霊性化（spiritualisation）」が成立していることを明らかにし、この点をアウグスティヌスの全著作にわたって検証した。その成果を英国リーズで開催された上述の国際会議において報告し（学会発表①）、セッション内でこの問題を討議した。

次に、これまでに発表した諸論考の骨子をまとめる。

① アウグスティヌスの初期著作、中期著作、『書簡』や『詩篇講解』を含む多くの『説教』、さらに、後期を代表する『神の国』のなかに一貫して見出される「貧困」への言及、

また慈善救貧活動喜捨清貧に関わる言説において、初期から後期への思想的な発展深化を認めることはできない。たとえ、アウグスティヌスが明示的に採用した神学的なモデルとしての聖書テキストの引用や解釈が多様性を高めてゆくといっても、貧しさや施しがより一般的な神学的、社会的な関心事のもとに組み込まれるその基本的な構図に変化は認められない。

② アウグスティヌスの貧困に関する言説は、その人間理解と密接な連関を保っている。それをもっとも明示するのは、施しに関するアウグスティヌスのアプローチである。心理学的な次元では、貧しさは人間の心という観点から捉えられ、「霊性化」されることによって、まず施しを与える側に焦点を当てる。そして、人間の心の高ぶりと謙遜を対比することによって、神の下での謙遜な生へと教会の会衆を唱導する。社会的な次元では、貧しい者たちへの具体的な言及をほとんど行わないことによって、むしろ会衆のうちに一体性をもたらすことを目指した施しが奨励されている。とはいえ、自発的な清貧に関しては社会的な状況を配慮した上で、修道士たちに対してのみ自己の所有物の全面的な放棄が命じられていた。さらに、終末論的な次元においても、貧しさと施しに関する「霊性化」が際立っている。聖書テキストを援用することによって、二次的である時間的、物質的なものを保持するよりも永遠的なものを受け継ぐことが、施しの霊的、救済的な目的であることを明示する。

本企画は、当思想史分野でのユニークな国際研究交流の成果である。このことは学会の注目を集め、日豪・日韓等の共同研究の要となった。さらに、新たに上村他1名の「アウグスティヌスにおける聖書解釈の理論と実践」平成23～25年度基盤研究(C)において、

その成果の一部は継承・展開されている。一方、出村は、考察の対象を書簡集に広げ、アウグスティヌスの「貧困」に対する取り組みの思想史的意義を展望するに至った。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計7件)

① Naoki KAMIMURA, “Friendship and Shared Reading Experiences in Augustine”, *Patrisica*, Supplementary Volume 3, Japanese Society for Patristic Studies, 査読有、2011, pp. 69-83.

② 出村和彦 「アウグスティヌスの「貧困」への関わりと「心」、東北学院大学キリスト教文化研究所紀要、第28号、査読無、2010、pp. 1-17.

③ Kazuhiko DEMURA, “On the Context and Development of Augustine’s Early Commentaries on the Pauline letters”, *SCRINIUM. Revue de patrologie, d’hagiographie critique et d’histoire ecclésiastique*, PATROLOGIA PACIFICA SECUNDA, St Petersburg, 査読有、2010, pp. 120-129.

④ Naoki KAMIMURA, “The Emergence of Poverty and the Poor in Augustine’s Early Works”, *Prayer and Spirituality in the Early Church*, vol. 5, Strathfield: St Pauls Publication, 査読有、2009, pp. 283-299.

⑤ Kazuhiko DEMURA, “Poverty in Augustine’s Understanding of his Monastic Life”, *Prayer and Spirituality in the Early Church*, vol. 5, Strathfield: St Pauls Publication, 査読有、2009, pp. 299-306.

[学会発表] (16件)

① Naoki Kamimura, “Augustine’s Spiritualisation of the Poor in an Era of Crisis”, The 18th International Medieval

Congress, 2011年7月12日, Weetwood Hall, The University of Leeds, Leeds, UK.

②Kazuhiko DEMURA, “The Concept of Heart in Augustine of Hippo: Its Emergence and Development”, Plenary Lecture, The 16th International Conference on Patristic Studies, 2011年8月12日, Oxford, UK.

③Kazuhiko DEMURA, “Augustine’s Heart-centered Anthropology and the Psychological Reconfiguration of the Community dealing with Poverty”, Joint Japanese-Australian Seminar on Crisis in Late Antiquity, 2011年3月3日, Australian Catholic University, Brisbane, Australia.

④Naoki KAMIMURA, “Augustine’s Spiritualisation of the Poor in an Era of Crisis”, Joint Japanese-Australian Seminar on Crisis in Late Antiquity, 同上。

⑤Naoki KAMIMURA, “The *exercitatio animi* (or *exercitatio mentis*) of Augustine in the *City of God*”, Prayer and Spirituality in the Early Church, 6th International Conference, 2010年7月9日, Australian Catholic University, Melbourne, Australia.

⑥Naoki KAMIMURA, “Spiritual Exercises in the Sermons of Augustine”, Annual Meeting of the Canadian Society of Patristic Studies, 2010年5月30日, Concordia University, Montréal, Canada.

⑦Naoki KAMIMURA, “The Evolving View of the ‘religion’ in Augustine’s Early Works”, North American Patristic Society 20th Annual Meeting, 2010年5月28日, Holiday Inn Chicago Mart Plaza, Chicago, USA.

⑧Kazuhiko DEMURA, “Christian Ethics of St. Augustine on Poverty”, The First International Conference of the Patristic

Society in Korea, 2010年3月19日, Presbyterian College and Theological Seminary, Seoul, South Korea.

⑨Naoki KAMIMURA, “The Use of the Poor and Poverty in Augustine’s *City of God*”, The First International Conference of the Patristic Society in Korea, 同上。

⑩Naoki KAMIMURA, “*Christianae vitae otium* in Augustine’s *De Academicis* (or *Contra Academicos*)”, The 34th International Patristic, Medieval, and Renaissance Studies Conference, 2009年10月17日, Villanova Conference Center, Pennsylvania, USA.

⑪Kazuhiko DEMURA, “On the Context and Development of Augustine’s Early Commentaries on the Pauline Letters”, Asia-Pacific Early Christian Studies Society 5th Conference, 2009年9月10日、東北学院大学。

⑫Naoki KAMIMURA, “Spiritual Exercises in the Letters of Augustine”, Asia-Pacific Early Christian Studies Society 5th Conference, 同上。

〔図書〕(計1件)

①出村和彦『アウグスティヌスの「心」の哲学：序説』、岡山大学文学部研究叢書 33、岡山大学文学部、2011、193頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

出村 和彦 (DEMURA KAZUHIKO)
岡山大学・大学院社会文化科学研究科・教授
研究者番号：30237028

(2) 研究分担者

上村 直樹 (KAMIMURA NAOKI)
東京学芸大学・教育学部・非常勤講師
研究者番号：40535324